

## 北海道産火成岩の顕微鏡観察 (その3)

地質研究室 技官 城戸 欽也



写真一1 島松山産普通輝石紫蘇輝石安山岩  
(115倍)

① カールスバッド式双晶と累帯構造を示す斜長石斑晶



写真一2 糠平産複輝石安山岩  
(115倍)

### (1) 普通輝石紫蘇輝石安山岩

千歳郡恵庭町島松山付近産のもので、玻璃と細かい鉱物からなる石基の中に、大きさの一定しない斜長石・普通輝石・緑～褐の多色性を有する紫蘇輝石の斑晶が点在している。副成分鉱物には、輝石類から二次的に変化した方解石と、磁鉄鉱とが存在する。全体にやや破碎作用を受けており、割れ目や碎片状化が認められる。

昭和30年12月島松山の南部山趾を対象とするロックフィルダム用原石の分布調査を行なったが、当時すでに降雪期にはいついて、基盤岩の露出を求めることができなかった。このため、跋涉の容易な沢をルートに選び、島松山熔岩体から供給されたと推定される転石の分布と岩質による間接調査方法をとった。写真一1はこのときのものです、転石から作成したものである。

5万分の1の石山図幅によれば、島松山熔岩は次のように記載されている。

暗灰青色の緻密な普通輝石紫蘇輝石安山岩で、洪積世に行なわれた火山活動によつて生じた産物である。この地域に広範な分布を有する支笏火山噴出物（浮石質凝灰岩・熔結凝灰岩）によつて不整合に被覆されている。

### (2) 複輝石安山岩

河東郡土幌村糠平産のものでガラス及び微細結晶からなる石基の間を巨晶の斜長石、及び短冊状の斜長石・普通輝石・紫蘇輝石があり玻璃基流晶質組織を示している。写真一2にみられる大きな結晶は斜長石の斑晶で、その間に長柱短冊状の斜長石が流状を呈している。副成物鉱物としては橄欖石・鉄鉱がみられる。